ＪＡ自己改革推進レポート（ＪＡ鳥取中央）１２月号

１．　ブロッコリー　前年比５０ヘクタール増

ＪＡ鳥取中央は１１月１８日、倉吉市本所において定例記者会見「中部農業みらい宣言」を開き、特産物の出荷販売状況や生産振興を報告した。

令和３年度のブロッコリー作付計画では、前年比５０ヘクタール増の２２４ヘクタールに拡大したと発表した。４月より稼働しているＪＡ全農とっとり野菜広域センターを活用して、広域出荷にも力を入れている。

同ＪＡの栗原組合長は「新規栽培者を含め、広域センター利用で、買取による経営安定や、出荷作業の削減で余剰時間を活用した栽培拡大に取り組む」と話し、ブロッコリーの経営試算や労働時間も報告し、さらなる栽培を呼び掛けた。

２．　「今までありがとう」２年ぶり　倉吉で人形、ぬいぐるみ供養祭開催

ＪＡ鳥取中央は１１月２１日、倉吉市のＪＡメモリアルホール報恩舎において「第１６回人形・ぬいぐるみ供養祭」を執り行った（新日本海新聞社特別後援）。新型コロナウイルスの影響で、２年ぶりの開催となった。

ひな人形やぬいぐるみなど６，３２８体が持ち込まれ、倉吉市仏教会の川崎会長ら６人の僧侶が読経する中、参列者６０人が感謝の気持ちを込めて焼香をした。

供養祭ではこれまでに約１１万７千体を供養しており、同ＪＡの栗原組合長は「地域とのつながりが健在で本年もにぎやかな祭壇になった。子どもらが可愛がって、苦楽をともにしてきた人形などに感謝の心をささげたい」と話した。

３．　「１１月期いきいき農業塾」を実施！

ＪＡ鳥取中央は、倉吉市のバイテクセンターで１１月２５日に「１１月期いきいき農業塾」を開き、受講生１６人が参加した。

同ＪＡの営農指導員が、定植するタマネギ「もみじ３号」と「猩々赤」（しょうじょうあか）の特徴や栽培方法を説明した後、実習としてほ場に畝（うね）をつくってマルチを敷き、タマネギ苗の植え付けをした。

下中営農アドバイザーから土壌改良材や元肥の散布などについても学んだ塾生たちは、「収穫時期の６月がすごく楽しみ。たくさん採れたら、知人にも食べてもらいたい」と期待を膨らませていた。

以上